

学校法人 埼玉福祉学園 埼玉福祉保育医療専門学校 学校関係者評価委員会 評価結果および改善方策

【2020年7月20日実施】

2019年度 自己点検・自己評価(2019年4月1日～2020年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	委員評価	
		優れている:3 適切:2 改善が必要:1					優れている:3 適切:2 改善が必要:1	学校関係者評価委員の御意見
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	3		教育理念(建学の理念)養成目的、教育目標を文書として明記している。 学園の理念は普遍のものであるが、時代や環境の変化に合わせて学科のイノベーションを図っている。	特になし		3.0	○理念が明確でありこれを達成するための教育システムや事業計画が立案されている。 ○教育理念の下に明確な教育方針を掲げ、高い意識で人材育成に取り組んでいる。 ○専門知識や技術の習得に重きをおくだけでなく、より良い一社会人として貢献できるように、考え方を育む教育にも力を入れているところは理想的ですばらしいと思う。 ○理念に基づき運営されていると思います。 ○最近では心の病を持った学生も多くなってきていると思いますが、その病気等により専門学校本来の学びや目的が果たしきれなくなってくるのではないかと思います。通常の学生への影響も気になるところです。
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	3		教育課程編成委員会や実習指導者懇談会、実習巡回時のヒアリング等を通じて必要な人材像、カリキュラムを構築している。 東京都介護福祉士会、埼玉県介護福祉士会、埼玉県社会福祉士会、埼玉県老人福祉協議会、さいたま市社会福祉協議会等と連携している。	特になし	特になし		
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	3		LT2教育システム、MMPプログラムなど独自のカリキュラムに基づいた現場力教育を行っている。	学科ごとの特色を優先して、学校全体の教育システムの実践は弱まってきている。	学科会議、教務会議での討議が必要。		
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	3		事業計画は5か年で計画しており、また周知するための研修や会議等システムが存在する。	特になし	特になし		
2 学校運営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	3		事業計画を5か年で作成、周知するための研修、会議がシステムとして運用している。 浸透度の確認としては、学園のパーソナルアンケートやONOMOミーティングなどがある。	特になし	特になし	3.0	○組織を自ら点検するシステムを構築し、健全な学校運営を推進している。合理的な発想を兼ね備え、組織として統制がとれている。 ○方針、計画が定められている。これに基づく組織・システム・運営が行われている。 ○学生の心の病や価値観の多様性、保護者のニーズなど、様々な事に対して対応が複雑になってきている事が想像されます。これに対応するスタッフの方々は相当な苦勞をされている事と思います。スタッフの方のゆとり、労働環境の安心が、学生へのサービスの質にも繋がると思いますので、スタッフの方のフォロー体制や待遇、人事考課などにおいて、引き続き組織全体で支えていかれる事を期待します。
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	3		チェック項目は全て事業計画に定めている。見直しは四半期ごと運営会議で行っている。	特になし	特になし		
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	3		理事会は年3回開催され、議事録も作成している。寄付行為も適宜変更している。	特になし	特になし		
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	3		組織図、職務分掌、会議日程は全て事業計画に記載して共有している。また就業規則も定められ閲覧できるようになっている。	特になし	特になし		
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	3		学園本部による人材採用、給料規定が定められている。昇任、昇格も目標管理制度に基づき業務を点数化しシステムとして機能させている。	特になし	特になし		
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	3		意思決定システム、責任者も事業計画に記載されている。	特になし	特になし		
	2-7-1 情報システム化に取り組む、業務の効率化を図っているか	2		AS400システムで広報～在学中～卒業後まで一貫した情報管理を行っている。また、近年では業務システムに移行しながら、利便性を高めている。 iPadによる出席登録を行っており、担任は学生の出欠情報を机上のPCで確認できるようになっている。 5月をデータプライバシーと指定して、各PCのデータの適正化、不必要なデータ削除を実施している。 個人情報の取扱いについては日本プライバシー協会の研修を全教職員が受講し、修了すると共に定期的な更新講習を行っている。	iPad入力ミスは減少している。新任講師、入力が不得意な講師向けの対策が必要である。 シラバス・コマシラバスは紙では準備および、欠席学生対応業務が煩雑である。	講師へのiPad使用の勉強会、個別指導		

3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3	教育課程編成委員会の規定を定め、それに基づいて実施している。	特になし	特になし	3.0	<p>○教育理念、目的を土台にした授業が行われていると思う。娘が高1の夏休みに参加したオープンキャンパスの体験授業においても感じた。</p> <p>○教育機関として根幹を成す部分だと思うが、現状に満足することなく高みを目指し改善を図っている点は評価できる。</p> <p>○職業実践専門課程校として、模範となる多様な教育活動や組織的指導を行っている。多様な学生に専門性高い知識・技術を身につけさせるために、さらなる非常勤講師の授業力向上が必要と考える。非常勤講師にカリキュラム、シラバス、担当科目の内容・範囲、他の教員の授業内容の把握等を理解する手段が必要と考える。</p> <p>○介護福祉士科においては、以前のように卒業と同時に介護福祉士の資格が取得できなくなってしまったので、それに代わる、同様の価値を見出せる魅力を作っていくとしたいと思います。</p>
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	3	教育指導要領(学生便覧)に全て記載している。 資格取得に向けては通常授業、通常授業外でも対策授業を実施している。 国家試験対策センターでデータの分析、対策研修を実施している。	特になし	特になし		
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3	教育課程編成委員会の規定を設け、学科ごとに年2回開催し、カリキュラム作成に活かしている。 講義・演習・実習は教育指導要領に記載し学生に説明している。 シラバス、コマシラバスも全ての授業で導入し、具体的な到達目標を示している。また、その到達具合を図るための小テストを毎授業で実施している。 学園グループの福祉教育分科会にて他校の成功事例を学び教育内容、方法、授業計画等の改善に活かしている。 目標達成人材をデプロマポリシーで明示している。 年度初めに学科ごとにシラバスを冊子で配付。また、毎回の授業でコマシラバスを配付している。	カリキュラム改定の根拠やプロセスを明確化するとともに、その効果をどのように図るかを明確にする必要がある。 シラバス・コマシラバスは紙では準備および、欠席学生対応業務が煩雑である。	教務部長を中心に各学科で検討を進め記録を残す。 LMS(learning management system)の導入(現在使用はMoodle)		
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	3	教育課程編成委員会のみならず、実習指導者懇談会、OBOG就職相談会等、業界と連携しての行事、実習巡回を通じて業界や卒業生の意見を積極的に取り入れている	特になし	特になし		
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか	3	キャリア教育ロードマップを作成し、授業や行事等体系立てた教育を実践している。	特になし	特になし		
	3-9-4 授業評価を実施しているか	2	前期・後期それぞれ1回学生による授業アンケートを実施している。年1回の講師面談にて、授業アンケートの内容をフィードバックしている。	アンケートの前年度との比較や、講師面談でフィードバックした後の改善状況の確認に課題がある。	フィードバック後の授業見学や講師との打ち合わせによる効果測定を実施する。		
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3	評価基準は学則で定めており、学生便覧に記載し学生への説明を行っている。 講師会議で成績評価(GPA評価)に関する研修を実施している。 定期試験と小テストの運用で、日々の学習が成果に繋がるしくみとしている。 進級卒業判定会議にて成績評価について認定している。	特になし	特になし		
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	3	分野特性で対外的なコンテスト等はないが、卒業研究や学習成果発表等の内容についてはレジメを冊子にしてまとめている。	特になし	特になし		
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	3	取得目標資格は学生便覧に記載しており、また資格取得に向けて対策授業も行っている。 WEBでの国家試験対策も行っている。	特になし	特になし		
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	3	国家試験不合格者への卒業後の支援は無料で行っている。	特になし	特になし		
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	講師契約は毎年更新し、そのたびに履歴書、資格取得の免許写し、実務経歴書も確認している。 教員の採用計画も事業計画に記載しており計画的な人事採用を行っている。 教員の資格・実務経歴などもシラバスに記載している 人材確保においては業界団体のホームページに掲載するなど連携を図っている。	教員の資格・実務経歴等についてはシラバスに記載なし。	次年度より記載していく。		
	3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	2	常勤職員については学園の研修、外部研修を通じて資質の向上に努めている。 また、講師向け研修会を実施している。 学園グループの教育研究・研修期間(JESC)にて教育学会を開催し教職員の教育活動を支援している。	授業改善の活動の取組が不足している。	成功事例の集約と水平展開。		
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	2	教務部長、学科長を中心に教員集団の資質向上に努めている。 役割一覧にて教育の責任は明確になっている。 FD研修の開催。 担任を中心に非常勤講師との情報共有を頻繁に実施している。	非常勤講師と情報共有はしているが、連携についてはまだ課題があり、学科によって連携協力体制に差がある。	講師とのコミュニケーション方法のシステム化、研修会、勉強会の検討			

4 学 修 成 果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	3	就職者率、内定率は目標設定している。学生の活動状況は就職システム(業務システム)で随時更新し情報共有している。就職行事も年間を通じて行っており、データも一元管理している。  OBOG就職相談会、模擬面接会等、時期に合わせた就職イベントと各科の就職対策を学生のモチベーションに合わせて実施することで、効果を高めたい。  分野ごとの新しい就職情報や傾向をキャッチするとともに現在の学生の就職意識や特徴などを伝えるなど情報交換を行っている。	特になし	特になし	3.0	○就職率向上、資格取得向上に良く取り組んでいる。 ○資格・免許取得や就職率向上に尽力している。卒業生とのネットワークに関する問題点は、卒業生側にも起因する要因が多いと考える。 ○数字として100%や%を掲げるのは、もちろん理解できます。進路を転向する者などにも可能な限りのサポートをしていると感じた。 ○卒業生や現場と養成校がつながれる取り組みについて、共に考えていけたらなと思います。 ○コロナの影響で中止となっていますが、同窓会等を利用した卒業生による就職相談会の企画、キャリアサポートセンターの充実など、就職希望者に対する様々な取り組みをされており、学生にとって良い環境にあると感じます。
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	3	資格ごとに合格率目標を事業計画で定めており、全国平均との比較をし、日々精査している。国家試験対策研修会に参加し、国家試験対策授業、模擬試験、教科書教材等の見直しを図っている。	特になし	特になし		
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	2	卒後1年の離職調査を行い、業務システムに情報集約している。「卒業生インタビュー」を学校HPに掲載。卒業生の活躍から福祉の魅力を発信している。	卒業生は当時の職員を通じてのつながりが基本の為、卒業生の動向がわからない世代がある。(現在の職員とのかかわりが薄い世代)	同窓会でのネットワーク再構築。卒業生に対しても学校公式LINEの登録を促す。各施設に一斉配信する。		
5 学 生 支 援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	3	キャリアセンターと卒業学年担任とは朝礼・終礼の日々ツールボックスを行い情報共有している。また、業務システムでも活動状況を共有している。説明会の実施も業界と連携し行っている。学生ポータルサイトを通じて求人票及び就職マニュアルを閲覧でき、保護者も含めた就職情報共有ができる。	新卒ではない未経験社会人学生の就職マッチング。(委託訓練生・40代以上の学生の就職マッチング)	個人に合わせた就職支援。キャリアプラン・ジョブカード作成。	3.0	○保育体制強化事業やワークスタディ等、業界団体と学校が連携して引き続き取り組めたらと思います。 ○カウンセラーの配置など体制整備を充実しているのは素晴らしいこと。教員が一人一人の学生のことをよく見て、気にかけて声かけすることがより重要だと思います。そうであれば学生の側にも身近な大人である先生方に近づきやすく、信頼や安心感を抱いて話したり相談できると思います。そういう面では、少なくとも私の認知している範囲では、教職員の方々の声かけや接し方はありがたいなと感謝しています。 ○義務教育、高等教育を修了し選挙権を得ている18歳以上、且つ自ら専門職を志して己の意思で入学した学生に対し、学校ほどのレベルまで保護しなくてはならないのであろうか。保護者の責任も多々あると認識しているがあくまで学校として出来る支援は行うという姿勢に感銘すら受ける。学生に対する愛情を感じる。 ○様々な支援が手厚く実施されている。学生一人一人に対する学習支援や生活指導の定期的実施、経済支援のきめ細かい紹介等をさらに指導してほしい。 ○退学の理由が、貴校で学ばれた事や経験によって、夢の進路変更と、嫌になって退学してしまったのでは意味は大分異なると思います。進路変更による退学等は経営的には厳しい事柄ですが、学生が自分の将来を更に見出し進ませ成長させてあげる事は学校の本文であると思いますので、退学者数だけに拘らないようにして頂ければと思います。その為、退学者数とは別に、進路変更者数やその理由などが上手く表せるようになると良いと感じました。 また、埼玉福祉学園や滋慶学園グループの横のつながりや組織力を活かして、学科変更がある学生に対して、退学せずに転向等が出来る仕組みを強めていって頂ければと思います。
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	3	退学数は開講以来数字で集約、分析している。また学生相談室を設置し連携している。  年1回のキャリアサポートアンケートにて個人の状況を把握し学生サポートに活かす。  合理的配慮の実施や研修を実施して一人ひとりの課題に対応している。	10名の退学者のうち、8名が1年生。1年に特化した学生対応が課題。  クラス内の人間関係や目的意識の喪失、精神的な疾患による問題の解決が不足。	問題発生後に早期対応と継続支援するための担当者を明確に設定する。  状況を業務システムに記録し、関係者で確認。		
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	3	専任カウンセラー1名と非常勤カウンセラー2名を配置している。またJTSC(滋慶トータルサポートセンター)とも連携し、様々なケースに対応している。	精神疾患の相談件数が増加しており、医療機関との連携が必要なケースもある。その際保護者の理解が得られないケースの関わりが難しい。また、カウンセリングの継続動機付けが難しい。	精神保健福祉の専任や非常勤講師、医療機関と連携を組み、対応策を検討していく。また、カウンセリング継続動機付け方法を検討していく。		
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	3	留学生窓口として教職員を配置。担任など複数人で留学生支援チームを結成し週1回の情報交換の場を作り、学習、学生生活、私生活等での問題解決を行なっている。	国家試験対策、職場の受け入れ態勢整備。  日本語学校から講師を招聘し特別授業を開講。	学園グループに留学生支援センターを設置する。		
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	3	日本学生支援機構の奨学金利用者は増えており、学生サービスセンターが手続、返還案内等行っている。また保護者への説明として保護者会を実施している。家庭での支援が充実するよう保護者との面談を強化している。	生活保護世帯や児童養護出身者など、家庭での支援が望めない学生、経済的困難者に対して個別に対応しているが、制度として整えていく必要がある。	学園グループの留学生支援センターを設置する。		
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	3	保健室の専門職員は居ないが、看護師、介護福祉士の有資格者がおり、対応している。健康診断も毎年実施している。相談室では精神的な相談を受け付けている。	2次検診対象者の受診率が100%にならない。	該当者の共有を実施。担任からの受診促進。		
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	3	学校運営の寮はないが、提携寮が男女それぞれ2つある。実際には埼玉県外からの入学は少なく、寮の利用も多くはない。	特になし	特になし		
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	3	SCWクワイヤーは高齢者施設や地域行事等で公演を年10回程度行っており、また学生スタッフ活動も地域活動を行い貢献している	特になし	特になし		
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	3	「一人ひとりを大切に」をキーワードに保護者会、保護者との個別面談を適宜実施している。また、成績通知は年2回発送している。	協力が得られない家庭への対応。	カウンセラー含め学科職員で共有して学校の出来ることを探りながら対応する。		
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	3	同窓生主催の同窓会を開催。キャリアアップに合わせた分科会や相談会を実施。会報も作成。今年2月に実施を予定していた同窓会はコロナ禍のリスク回避のため中止	卒業生のキャリア段階に合わせた卒後教育としての同窓会の開催。集合型同窓会の限界。	オンラインでの実施		
	5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	3	埼玉県老人福祉協議会と連携して「高齢者福祉研究大会」を実施。また「卒業研究発表会」や「介護福祉教育学会」など業界連携をしている。	特になし	特になし		
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3	社会人入学者は毎年3割程度おり、昨年の卒業生は新卒学生の人数より既卒学生の人数的が多かった。学校案内や説明会で対応している。図書室には司書を配置し自習環境も整えている。	就職においては単に分野の適性にとどまらず年齢・家庭状況・職務経歴を前提とした支援を要する。	Jobカード作成支援			

6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3	指定規則と同等またはそれ以上の設備、備品を整えている。設備については点検、整備含め関連会社が行っており計画的に改修もを行っている。 卒業生対象に図書室の開放と貸し出しを行っている。 滋慶スペースによる施設・設備等の保守、入れ替え等の10年計画を立案。その計画に基づいた予算を事業計画に盛り込み実行。	特になし	特になし	2.9	○良好である。 ○多くの学生が集う以上、防災対策は不可欠。有事に際し「学校が地域の防災拠点として機能する」という覚悟や使命感も必要と思われる。 ○教室や設備などがきれいに整備されており、学業をする環境が整っていると感じます。また、防災等では自治会と密に連携している様子が伺え、地域と密着した運営が出来ていると感じます。
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	実習については、学科ごとに実習要綱を作成し、また実習指導者には事前に学校で研修を実施している。また巡回指導でも実習指導者と連携を図り学生を指導支援している。学校行事は学園祭や地域行事、運動会など学生主体で運営を行っている。	特になし	特になし		
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3	埼玉ベルエポック製菓調理専門学校と連携して防災訓練を実施している。施設の耐震化などは関連会社に管理してもらい適正である。 非常時には2校のインカム(トランシーバー)で連絡を取りながら対応できるようになっている。	特になし	特になし		
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3	防災マニュアルは学園として規定している。また携帯用の防災マニュアルも全学生に持たせて危機管理を行っている。 非常時持ち出し用の名簿も職員室内に置いてある。	特になし	特になし		
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	3	埼玉県専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいて募集活動を行っている。募集目的のみならず福祉、保育・医療職の正しい理解を得るための高校訪問、説明会も参加している。	介護分野への高等学校教員の正しい理解が得られない。(介護は3Kの仕事のような認識)	高校訪問を中心に福祉・保育・医療分野の正確な情報提供を実施。 また、教育委員会や校長会をも巻き込んだ福祉・保育・医療分野の仕事説明会を関連団体や県の所管と連携し実現をめざしたい。	2.8	○団体と連携してより魅力ある学校となるような取り組みができればと思います。 ○募集についてHP、ツイッターなどを多用して広く宣伝していると思う。頻繁に更新して下さっているようで、より多くの最新の情報を入手できる。 ○学生募集については熱意を持って取り組んでいると感じられる。受け入れに関しても適切な対応が取られている。 ○募集担当者が創意工夫してこまめに募集活動にあたっている。しかし福祉・保育分野の学生募集は困難な面が多い。指導的立場にある多数の卒業生、生き生きと学ぶ在校生等を前面に出して、魅力ある学校・職業であることを広報してほしい。 ○学生募集を重点的に行うターゲット高校を定めて集中的に募集を行う必要がある。保育・福祉・医療機関を活用した学生募集という新しい視点も必要である。入学金・授業料減免制度や各種奨学金制度の活用(内容、申込方法、返済方法、免除...)等を詳しく記載したパンフレットを配布してもよい。 ○業界関係者としても介護人材の不足は懸念しているが、一企業が努力しても限界がある。その為、学校が中心となって様々な企業を巻き込み、連携を繋げていって頂けることに期待します。また、埼玉県北部のエリアは介護を目指したいと考える学生が少ないように感じます。この点についても何かしらのアプローチをされることに期待します。
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	3	上記同様、ルールに沿った募集を行っている。 卒業生の活躍を学校案内等に掲載し、就職分野や進路先の理解、教育を中心とする学校の理解が得られるように工夫をしている。	特になし	特になし		
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	3	募集要項に選考基準や入試方法は記載されており、入試ごとに判定会議を行って公平な審査が行われている。	特になし	特になし		
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	3	数値データは毎月週行われる運営会議でチェックしながら分析、対策を打っている。財務を担う関連会社とも適宜打ち合わせを行い実学生数と財務の数字をチェックしている。	特になし	特になし		
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3	入学初年度のみならず、卒業までにかかる学費諸費用について募集要項に明示している。また諸費用算定にあたっては、事前に見積もりをとり、それに基づいた徴収額を学内で決定している。	特になし	特になし		
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	3	入学前の3月末までの申し入れに対して学費返金は明示し、実際に返金している。	特になし	特になし		
8 財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	5か年の中長期事業計画で収支計算を行っている。またその予算執行状況を四半期ごとにチェックし修正しながら適切な予算運用をしている。設備投資についても財務状況を見ながら5か年計画を立てている。	定員充足はしていない。	廃科、定員変更、新学科の設立など、イノベーションを実施。	3.0	○良好である。 ○学校の対応は適切である。 ○新型コロナウイルス感染拡大によって、イレギュラーな生活を強いられるが、学校は衛生面でも、ZOOMによるオンライン授業への取り組みなども、可能な限り早く着手して、学生の健康の安全と教育を受ける機会をしっかりと確保して下さった。金銭的な面で大丈夫かなと感じましたが、保護者としてはありがたく感謝しています。 ○決算を見ましたが、これが一過性のものなのか、学生数の減少等による今後も続く慢性的なものなのか注意が必要だと思います。
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	3	関連会社による財務の監査、分析を行い適正な運営をしている。またその連携によって学校としても予算執行を管理している。	特になし	特になし		
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3	学科の変更などに伴う募集の費用や設備投資など5か年で計画を立て運用している	特になし	特になし		
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	3	「予算=決算」を目標に関連会社とも連携し透明性の高い予算執行を行っている。 学園内監査も行い、適正に運用されているかチェックを受けている。	特になし	特になし		
	8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	3	会計監査は学校の利害関係者に対して法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために第三者による監査人(公認会計士及び監事)が監査を実施し、監査報告書の作成、理事会及び評議員会で報告している。	特になし	特になし		
	8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	3	情報公開規定、情報公開マニュアルを整備しており、それに基づいてホームページでも情報開示している。	特になし	特になし		

9 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3	コンプライアンス委員会、個人情報保護委員会を設置し、法令遵守に努めている。 学園本部にはセクシャルハラスメントの相談窓口がある。 学生にはソーシャルメディアの適正な使用方法を含めコンプライアンスに関する教育を行っている。	特になし	特になし	3.0	○法令の遵守が仕組み(システム)として構築されている。 ○各委員会の設置や情報公開等、確実に行われている。 ○SNSなど様々な情報発信ツールを使ってオープンな雰囲気が出来ていて、良い印象が感じられる。情報公表では、ホームページ上に見えにくい場所に小さく載せることなく、メニューバーから情報公表ページに飛ぶようになっており、信頼性を感ぜられる
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3	就業規則に個人情報の取り扱いに関する規定も設け、全職員に対して個人情報保護の研修を実施している。 学生についても現場実習における個人情報保護の授業を実施している。	特になし	特になし		
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	自己点検自己評価委員会を設け、年に1度点検会議を実施している。またその結果を学校関係者評価委員会で報告し意見をもらい改善している。	特になし	特になし		
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか	3	ホームページで学校評価、財務状況、監査結果など公表している。	特になし	特になし		
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	3	学則や規定は毎年見直し修正のある場合は届出を出している。 教育課程編成委員会は2年ごとに任期を設け適切な方に評価していただいている。	特になし	特になし		
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	3	ホームページで公表している。	特になし	特になし		
	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3	ホームページ上で学校情報の公開、さらにツイッターやブログで教育活動を公開している。	特になし	特になし		
10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	埼玉県老人福祉施設協会と協同で高齢者福祉研究大会を実施している。 精神保健福祉協会や自治会の会合場所として教室を提供している。 地域の子ども食堂の開催場所として教室を提供している。 クラーク高校、KTCとは年間を通じて福祉授業を本校で開講している。 ケアマネの講座など実施している。 地域清掃、パトロールに職員、学生で積極的に参加している。 地域包括支援センターと連携し、介護福祉士科にて【学内オレンジカフェ】を実施した。	特になし	特になし	2.8	○学校の社会貢献活動は良く実施されている。学生やサークルの自主的貢献を後押ししてほしい。 ○学生に対してどこまで社会貢献を要求するかも依ろう。地域清掃や夜回り活動は目に見える地域貢献の最たるものだが、学校の存在そのものが「周辺地域を文教地区として保存する役割」を果たし、商業地域化を抑止する防波堤としての機能を果たしている。 ○引き続き地域とのつながりを大切にしていただければと思います。 ○昨年、学園祭にお邪魔させていただきました。介護福祉士科は留学生たちが大勢積極的に参加していて、その様子を見たり、体験を通して娘は視野が広がった。これも国際教育・国際交流だと感じた。 ○学生や地域の方々と連携して、ボランティア活動など出来ており、学校がある事による地域の活性化に繋がっていると感じ、地域に貢献できている。
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	2	ウエストフロリダ大学(UWF)と日米福祉学会を実施している。 また、UWFからは日本での交流会も実施している。 また国際教育は建学の理念の一つでもあり、海外研修、国内で行う国際講座など実施している。 2019年度留学生受け入れ人数は14名となった。日本語学校とも連携し、日本語トレーニングの授業も実施している。	留学生の受け入れについては体制含め今後整えていく。	学園の国際センターとの連携、留学生受け入れ実績校との連携を通じて外国人教育を構築していく。		
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3	学科掲示板にて学生の参加を積極的に促している。	特になし	特になし		